



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL

恩賜財団 済生会横浜市東部病院

<https://www.tobu.saiseikai.or.jp/>

院長 三角 隆彦 〒230-8765 横浜市鶴見区下末吉3-6-1 TEL.045-576-3000

ダビンチの適用範囲を次々に拡大 現在3診療科で8種の術式を実施

横浜市東部地域の中核病院として、高度な診療機能を駆使して、あらゆる分野の疾患に幅広く対応。「ダビンチ」をはじめとする先進的な医療機器・設備の導入を続々と進め、地域医療に貢献している。ロボット手術センターを統括する石田勝医師に話を聞いた。



ロボット手術センター長代理
前立腺治療センター長/泌尿器科医長

石田 勝

いしだ・まさる/2002年慶應義塾大学医学部卒業。日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医。ロボット支援手術プロクター(前立腺全摘除術、腎部分切除術、膀胱全摘除術)

▼手術実績

(2012年11月~2018年12月)

前立腺全摘	421件
腎部分切除	72件
膀胱全摘	16件
腎盂形成術	4件
仙骨固定術	10件
胃がん	23件
子宮筋腫	15件
子宮がん	13件
累計実績	574件

※2018年 160件(2018年1月~12月)

手術支援ロボット「ダビンチ」が初めて東部病院に導入されたのは、2012年11月のこと。その後、2016年12月に新型「ダビンチXi」への更新を経て、同院のロボット支援手術の実施歴は7年目を迎えた。

この間の手術実績は、ダビンチ手術の看板ともいえる前立腺全摘術に始まって、2013年には胃がん手術を開始。その後も積極的に実施範囲を広げ、泌尿器科・外科・婦人科の3つの診療科・計8種類の術式を合わせて574例(2012年11月~2018年12月)を超えた。

「1台のダビンチでこれだけの実績を築くことができた理由の1つは、当院の強力な手術実施体制にあるかもしれません」と話すのは、2018年1月に開設されたロボット手術センターを統括する泌尿器科の石田勝医師。(以下同)

「当院にはダビンチの術者資格保有者が11名在籍しているほか、指導する資格(プロクター)を持った複数名の医師が手術に関わっています。これらの医師を中心に、麻酔科医、手術室看護師、臨床工学士、事務スタッフなどから編成されるチームがロボット手術センターを運営してきました」

センターの利点はこれだけにとどまらない。複数の診療科にまたがるロボット手術を一元管理できることで、患者さんが手術を待つ期間を短くできる。

「さらに東部病院には、東部がんセンターと患者支援センターがあります。最適な治療法を診療科目に限定することなく検討すること、術前・術後の手厚いサポートなど、3つのセンターの連携により、充実した医療に繋がっています。これからの様々な適応疾患に対して、ロボット手術の特長を生かした東部病院ならではの丁寧で質の高い医療を提供していきます」

「当院にはダビンチの術者資格保有者が11名在籍しているほか、指導する資格(プロクター)を持った複数名の医師が手術に関わっています。これらの医師を中心に、麻酔科医、手術室看護師、臨床工学士、事務スタッフなどから編成されるチームがロボット手術センターを運営してきました」

センターの利点はこれだけにとどまらない。複数の診療科にまたがるロボット手術を一元管理できることで、患者さんが手術を待つ期間を短くできる。

「さらに東部病院には、東部がんセンターと患者支援センターがあります。最適な治療法を診療科目に限定することなく検討すること、術前・術後の手厚いサポートなど、3つのセンターの連携により、充実した医療に繋がっています。これからの様々な適応疾患に対して、ロボット手術の特長を生かした東部病院ならではの丁寧で質の高い医療を提供していきます」



社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL

恩賜財団 済生会横浜市東部病院

<https://www.tobu.saiseikai.or.jp/>

院長 三角 隆彦 〒230-8765 横浜市鶴見区下末吉3-6-1 TEL.045-576-3000

人工関節置換術 年間症例371件 実績豊富な東部病院運動器センター

横浜市東部地域の医療の中核を担い、高度な診療機能を駆使して、あらゆる分野の疾患に幅広く対応。整形外科では、高齢者に多い膝関節の変形・損傷に対し、術後のリハビリ、退院後の生活までを視野に入れた満足度の高い手術治療を提供している。



整形外科医長 谷川 英徳

たにかわ・ひでのり/2002年慶應義塾大学医学部卒業。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

▼手術実績 (2017年1月~12月)

人工関節置換術	371件
骨折観血的手術	441件
脊椎手術	196件
現在の関節リウマチ治療患者数	350名
整形外科総手術件数	1,498件

変形性関節症は、高齢者が要介護となる原因になることが多い運動器疾患の一つ。東部病院にも連日、膝や股関節の痛みや不調を訴える多くの高齢者が、近隣の病院やクリニックからの紹介状を携えて来院する。

「当科では、軟部悪性腫瘍を除き、上肢・下肢・脊椎すべての疾患やけがの患者さんを、部位別に12名の整形外科医が分担して診ています。その中で私は膝関節が専門で

変形性関節症の手術は、的確な施術と、術前・術後にわたる万全のケア、さらに、十分なリハビリを行って、初めて完結する治療です。当院は、大規模総合病院の強みである他科との連携はもちろん、救急医をはじめほとんど全ての診療科の医師が24時間体制でいるので、合併症のある方でも安心して手術を受けられます」

変形性膝関節症の手術治療には、大きく分けて、人工関節置換術と骨切術の2つの方法がある。いずれも優れた治療法だが、患者の膝の状態により向き不向きがあり、どちらを選ぶかの判断は難しい。

「当院では先進の機器や医療技術の導入は当然として、第一には、関節の損傷の程度や術後どんな生活を希望しているかを十分考慮したうえで、患者さんに適した方法を決めています」

また、手術の実施に当たって、院内のさまざまな職種からなるケアチームが手術患者を手厚くサポートしているのも、同院ならではの特徴。

「変形性関節症の手術は、的確な施術と、術前・術後にわたる万全のケア、さらに、十分なリハビリを行って、初めて完結する治療です。当院は、大規模総合病院の強みである他科との連携はもちろん、救急医をはじめほとんど全ての診療科の医師が24時間体制でいるので、合併症のある方でも安心して手術を受けられます」

「当院では先進の機器や医療技術の導入は当然として、第一には、関節の損傷の程度や術後どんな生活を希望しているかを十分考慮したうえで、患者さんに適した方法を決めています」

また、手術の実施に当たって、院内のさまざまな職種からなるケアチームが手術患者を手厚くサポートしているのも、同院ならではの特徴。

「変形性関節症の手術は、的確な施術と、術前・術後にわたる万全のケア、さらに、十分なリハビリを行って、初めて完結する治療です。当院は、大規模総合病院の強みである他科との連携はもちろん、救急医をはじめほとんど全ての診療科の医師が24時間体制でいるので、合併症のある方でも安心して手術を受けられます」

「当院にはダビンチの術者資格保有者が11名在籍しているほか、指導する資格(プロクター)を持った複数名の医師が手術に関わっています。これらの医師を中心に、麻酔科医、手術室看護師、臨床工学士、事務スタッフなどから編成されるチームがロボット手術センターを運営してきました」

センターの利点はこれだけにとどまらない。複数の診療科にまたがるロボット手術を一元管理できることで、患者さんが手術を待つ期間を短くできる。

「さらに東部病院には、東部がんセンターと患者支援センターがあります。最適な治療法を診療科目に限定することなく検討すること、術前・術後の手厚いサポートなど、3つのセンターの連携により、充実した医療に繋がっています。これからの様々な適応疾患に対して、ロボット手術の特長を生かした東部病院ならではの丁寧で質の高い医療を提供していきます」